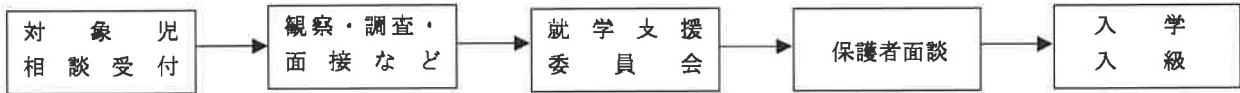


特別支援教育・相談

特別支援学校及び特別支援学級への入学、入級手順



就学支援委員：障害や課題の状況及び程度を把握し、就学支援委員会に報告する。

<就学支援委員会>

障害の種別や就学先の判断に加え、就学後の課題や配慮事項など、個別の教育支援計画につなげるための教育的支援の在り方について審議する。

<構成>

- | | |
|---------------------|-----|
| 1 学識経験者 | 1名 |
| 2 専門医 | 2名 |
| 3 児童福祉施設職員 | 1名 |
| 4 特別支援学校担当者 | 2名 |
| 5 市内公立保育園・幼稚園・学校関係者 | 15名 |
| 6 市教委等職員 | 4名 |

★特別支援学級の設置状況（H27.5.1現在）

学級の種類	小 学 校		中 学 校	
	校 数	学級数	校 数	学級数
知的障害	35	40	17	19
自閉症・情緒障害	31	36	18	19
肢体不自由	3	3	3	3
難聴	1	1	1	1
通級指導教室 （言語）	3	7	0	0
通級指導教室 （情緒等）	4	5	1	1

★特別支援学級在籍児童生徒数（H27.5.1現在）

区分	知的障害	自閉症 情緒	肢体 不自由	難聴	計
小学校	174	163	4	4	345
中学校	91	78	4	2	175
計	265	241	8	6	520

★特別支援学級在籍学年別児童生徒数（H27.5.1現在）

校 種	小 学 校						中 学 校			計
	学 年	1	2	3	4	5	6	1	2	
児童・生徒数	53	54	65	59	61	53	62	52	61	520

★特別支援学校の状況（H27.5.1現在）

県立西日野にじ学園（知的障害）

区 分	児童・生徒数	左のうち市内在住者数
小 学 部	44	40
中 学 部	51	44
高 等 部	121	98
計	216	182

県立北勢さらら学園（肢体不自由）

区 分	児童・生徒数	左のうち市内在住者数
小 学 部	57	32
中 学 部	28	20
高 等 部	44	27
計	129	79

私立聖母の家学園（知的障害）

区 分	児童・生徒数	左のうち市内在住者数
小 学 部	4	2
中 学 部	18	13
高等部本科	27	21
高等部専攻科	29	16
計	78	52



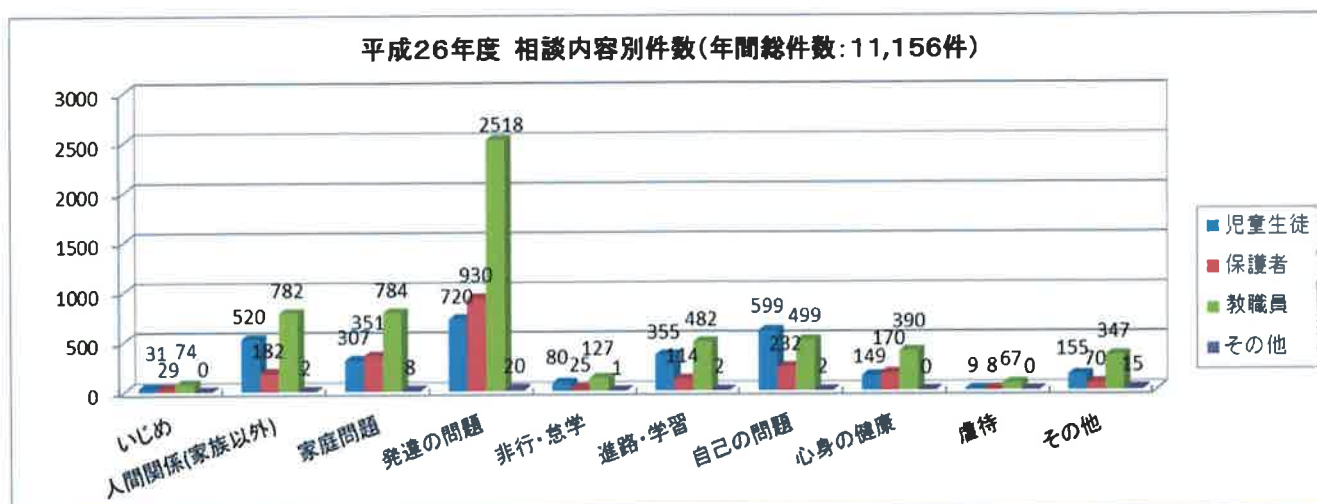
<平成26年度 三泗特別支援学級連合運動会>

重点② 豊かな人間性の育成

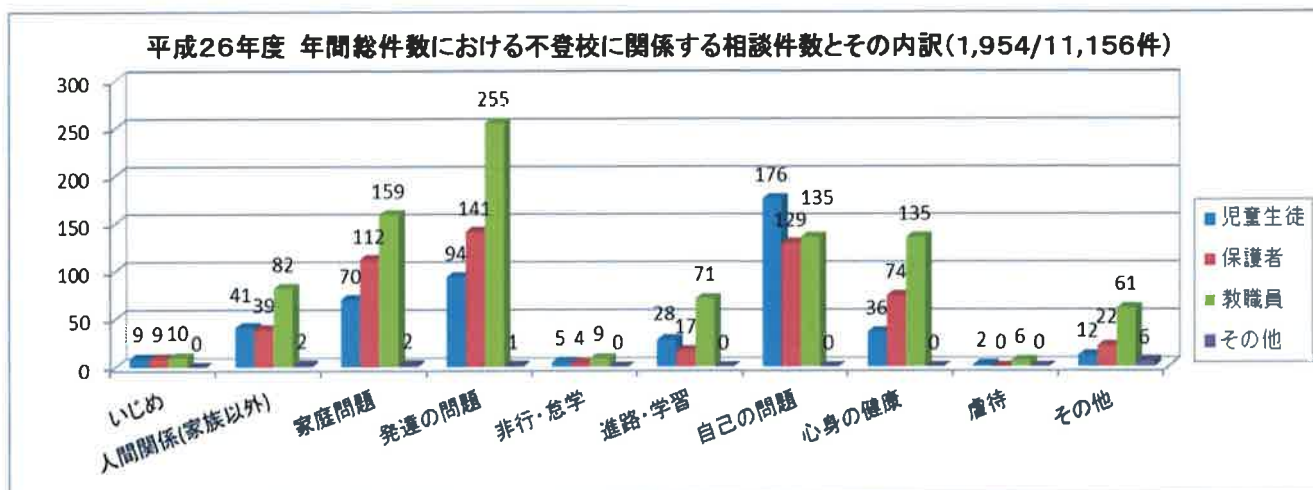
- ・ 県配置のスクールカウンセラーは、週1回3～7時間配置され、平成26年度の1校の平均の相談件数は143件でした。市配置のスクールカウンセラーは週1回6時間で、1校の平均の相談件数は242件でした。相談件数が増えてきて、配置時間や回数が足りなくなっていることが課題となっています。
- ・ スクールカウンセラーは、日々の相談業務だけではなく、学校内の生徒指導委員会や特別支援委員会に参加し、情報の共有や対応の仕方のアドバイスしてもらいます。また、夏季休業中、校内の研修会の講師を務めるなど、教職員の教育相談力の向上に寄与しています。

○ スクールカウンセラーへの相談内容

- ・ 児童生徒が相談する内容では「発達の問題に関する相談」が最も多く、全体の25%に相当します。次いで、「自己の問題についての相談」「人間関係（家族以外）に関する相談」の順となっていますが、相談内容は多岐に渡っています。
- ・ 保護者が相談する内容では、「児童生徒の発達の問題に関する相談」が最も多く、全体の44%に相当します。次いで、「家庭問題に関する相談」、「自己の問題に関する相談」の順になっています。
- ・ 教職員が相談する内容では、「児童生徒の発達の問題に関する相談」が最も多く、全体の41%に相当し、指導に悩んでいる教職員の現状が顕著にみられます。



- ・ 不登校に関する相談は、総相談件数11,156件中1,954件でした。これは、全体の約18%を占める割合であり、不登校児童生徒の増加に伴い、相談件数も増加傾向にあります（平成25年度は9,991件中1,717件、17%）。
- ・ 不登校に関する相談内容としては、「発達の問題に関する相談」が最も多く、次いで、「自己の問題に関する相談」、「家庭問題に関する相談」、「心身の健康に関する相談」の順になっています。



○ 関係機関との連携

- ・ スクールカウンセラーは、必要に応じ、心療内科等の医療機関や適応指導教室等の市の機関と連携をしています。その件数は、平成26年度は、心療内科等の医療機関26件、市の機関30件（平成25年度は、医療機関21件、市の機関59件）でした。

○ ハートサポート事業

- ・ カウンセリング等に関し、専門的な知識と経験を有する臨床心理士34名をハートサポーターとして学校・園や家庭に派遣しています。
- ・ 平成26年度の相談件数は94件（平成25年度97件、平成24年度83件、平成23年度91件）でした。
- ・ 相談件数の推移では、平成24年度と平成25年度は、中学校の相談件数が最多でしたが、平成26年度は、小学校の相談件数が最多となりました。これは、発達の課題に悩む児童や保護者の継続的な相談が小学校で増加したことが理由として挙げられます。
- ・ 平成26年度のカウンセリング内容は、不登校関係、子育て不安、子どもの行動に対する不安、発達障害、対人関係等が主なものでした。近年、不登校児童生徒の保護者の子育て不安など、一つの問題から波及する複合型の相談が増加しています。
- ・ 保護者が情緒不安定になり、うまく子育てができないケースも増加しており、保護者に対する心のケアもハートサポーターの大きな役割となっています。
- ・ 校外で痛ましい事件が起こった場合などの緊急支援としても、ハートサポーターを派遣しています。平成26年度の緊急支援はありませんでした。（平成25年度は小学校1校と中学校1校に延べ288時間派遣しました。）

四日市市スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用状況について

H28. 8. 19
四日市市教育委員会指導課

1 SSWの活用状況

年度	校種	市SSW			県SSW	
		派遣校数	派遣回数	時間数	派遣校数	派遣回数
H26年度	小				2	8
	中				2	2
H27年度	小	2	3	59	1	2
	中	3	15		1	2
H28年度 (7月末現在)	小	6	9	94	3	10
	中	6	16		1	4

※本年度の市SSW配当時間は、200時間で、すでに7月末で47%を消化している。

2 SSWの主な活動内容

SSWは、福祉的側面での視点を含めた包括的なアセスメントを行い、学校を支援していく立場となる。具体的には、次のようなことを行っている。

- ① 情報の収集や整理（アセスメント）
- ② 学校主催のケース会議への参加
- ③ 学校との協働による支援計画の作成
- ④ 家庭と学校・関係機関とのつなぎ役
- ⑤ 目的や有効性を十分に検討した上での家庭訪問等
- ⑥ 校内研修会でのソーシャルワーカー的視点の啓発

3 SSWが要請を受ける主なケース

家庭環境に起因した長期欠席や問題行動等のケースで、どこの関係機関にもつながっていないものや、関係機関につながってはいるものの、事態の改善がみられないケースとなっている。相談内容の種別は、以下の通り。

相談内容	年度	H27年度 (件数)	H28年度7月末現在 (件数)
① 不登校		4	6
② いじめ		0	0
③ 暴力行為		3	4
④ 児童虐待		0	2
⑤ 友人関係の問題 (②除く)		0	2
⑥ 非行・不良行為 (③除く)		0	3
⑦ 家庭環境の問題		4	11
⑧ 教職員等との関係の問題		0	2
⑨ 心身の健康・保健に関する問題		3	3
⑩ 発達障害等に関する問題		0	10
⑪ 保護者対応		6	9
⑫ その他、研修会等		0	3

※複数の要因が絡み合っているため、派遣回数とは合致しない。